

2024 年度全関西大学女子バスケットボール秋季トーナメント大会
課題点・検討事項・総括

【総務部】

1. 課題点

- 1) 荷物発送について、リーグと秋季トーナメントの日程に間がなく、忘れ物や持ち物数の誤り・荷物の会場行き違いなどが多くあった。
- 2) 代表者会議について、資料作成が遅く、それにより配信が遅くなってしまった。
今回の代表者会議はオンライン開催だったこともあり、チームへのパンフレットの渡し方についてどのような段取りでいくのかを準備期間に計画できていなかった。
また、理事へのパンフレットについても、通常であれば、郵送していたが、今回はリーグ戦会場にて手渡しを行った。
- 3) チームのスкауティングエリアについて、曖昧な部分があった。
→チームにわかりやすいようにエリアを明確化する。何度も使用したことがある大学であれば、事前にエリアを考える。
- 4) 表彰物の発注について、予定していた日程より遅れてしまった。
→余裕を持って発注ができるように、事前に決めておかなければならないものなどを把握しておく。
- 5) 今回の表彰式の準備について、準備不足が見られた
→表彰式を行う日は、その日1日の表彰式に向けての段取りを立て、事前に細かい打ち合わせまでできるように準備を行う。
今後は表彰式準備割当を作成する。

【広報渉外部】

1. 課題点

- 1) Xでの試合結果速報の誤りがあった。
→「二重確認」を徹底し、広報渉外部学生のLINEグループ内で投稿前に必ず確認を行う体制を整える。
- 2) YouTube 配信について、配信の際に使用している Google Chrome が落ちたため、試合開始時刻を過ぎてから配信を開始した。
→今回迅速に対応できたが、今後、配信がうまくいかない場合は従来通り Instagram の LIVE 配信で代替対応を行う。

- 3) スタッツについて、準備不足により追加エントリー選手の登録ができていなかった。
→スタッツの準備の際に、追加エントリー選手まで登録されているかの確認を徹底する。また、競技部からデータ共有を受け、チェックリストに「追加エントリー用紙」の項目を追加する。
- 4) 新チームが始動したチームの写真について、過去大会の写真がないため、今大会で撮影した写真を使用することとなり、良い写真を確保することが難しかった。
→今後は撮影計画をより緻密に立てる。
- 5) 写真の整理について、リーグ戦に続いて今大会があり、写真整理に時間がかかった。その結果、使用する写真を探すことに手間が掛かった。
→今後は、試合後すぐに写真整理を行い、作業を効率化する。

2. 検討事項

- 1) YouTube 配信動画を保存している HDD について、容量不足により動作が重くなったため、新しい HDD の購入を検討する。

【財務部】

1. 収入

【チーム参加費】

参加費：参加費@20,000×27 チーム

勝ち上がり金：@2,000 円×19 試合

合計 578,000 円

【パンフレット】

チーム一括；一括購入費@600×253 冊

合計 151,800 円

一般パンフレット売上；一般パンフレット費@800×16 冊

合計 12,800 円

WEB 一般売上：WEB パンフレット費（送料込み）@1,000×8 冊

合計：¥8,000

パンフレット購入合計 277 冊 合計:172,600 円

総収入 750,600 円

2. 課題点

- 1) 初の試みとなった交流戦があったため準備不足が目立った。
→発送リストの作成を徹底する。
- 2) パンフレットの発注数がギリギリだった。(今回は 450 部発行 311,850 円)
→昨年の実績をもとに余裕をもって発注する。
協賛企業 38 冊
理事 74 冊
残り 8 冊

【競技部】

1. 課題点

- 1) 追加変更エントリーのデータをまとめる作業が遅くなった。
→来年度は、パンフレットを企業や理事に発送する際に、追加変更エントリー一覧も同封できるようにスケジュールを考える。
- 2) 追加変更エントリー一覧が A4 サイズの用紙だとパンフレットに挟んだ際に少しはみ出てしまった。
→今後は用紙のサイズを B5 にする。
- 3) 荷物の発送準備について、荷物リストを作成しチェックも行っているが、今回は同じ日に 2 会場分の荷物を準備した為、入れ忘れ、入れ違いが起こってしまった。
→準備する人、発送する人の 2 人でダブルチェックを確実にを行うと共に、準備する人は何が足りず、何が足りていたのかを発送する人にわかるようにし、必ず伝達する。

2. 検討事項

- 1) 8 シードの取り扱いについて、参加チームが少ないため、8 シードではなく 4 シードで対応するなど検討する。
- 2) アップについて、試合当日のエントリーの際に、エントリーに来た人にアップ時の注意事項を伝え、選手に共有するよう伝えているが選手からアップ時の注意事項を聞かれることが多々あった。
ex) ボールは使用していいか、雨天時はどこを使用するか etc.
→最後にだけ共有するよう伝えるのではなく、冒頭にも共有をお願いして存在感を出しチーム内で共有してもらうように促す。
- 3) 試合前のアップが隣のコートの際に、条件としてボール使用可としていたため、テニスボールを使用しているチームがあり、そのテニスボールが試合中のコートに入ってしまう危険だった。
→エントリーの際にバスケットボール以外は使用禁止などと伝え方を工夫する。

【審判部】

1. 検討事項

1) 大学側の意見より、リーグ戦は帯同審判を導入していたのにも関わらず、交流戦ではC級ライセンス以上の審判が割当られていた。リーグ戦の方が主要な大会であるため、割当を考える必要がある。

→リーグ戦で1.2部の帯同審判にも機会を与える。

→リーグ戦を軽視しているわけではなく、交流戦にC級以上のライセンスを割当できたのは、他の大会との重なりが落ち着いて都合をつけていただける審判員の数も増えた時期的な状況もある。大学側の意見もわかるが、リーグ戦期間中は、学連の試合だけではないこともあり、審判員の不足が懸念事項であるため、そのために帯同審判制度を導入して、学生審判を増やすための活動をしている。その実情についてもご理解いただきながら、今後の割当も考慮しながらやっていく。

2) 帯同審判として、遠方に住んでいる方を登録していたため、実際に審判をしに来られないという大学があった。

→来年度もこのような方を登録しているチームには、再度確認をする。

【秋季トーナメント大会を終えての全体総括】

秋季トーナメント大会では、普段試合に出ていない選手が活躍する大会、4年生が出場する最後の大会、新チームで初めて挑む大会など、各チーム色々な思いを持って挑んでいた大会でした。リーグ戦最終日の翌日から開幕したことによって、新チームの準備が整っていない状態で戦わなければならないチームがあり、各チームの試合に向けての調整も大変だったのではないかと思います。また、学連員としても、大会準備で混乱することが多くありました。リーグ最終日と同じ節（週末）からゲームを組むことは、選手にとっても学連にとっても改善が必要です。

今後の秋季トーナメント大会の在り方について、年々参加校数が減少しており、大会そのものをなくすという選択肢も出ておりますが、それぞれのチームが目的をもって参加している大会なので、参加したいというチームがいる限り、大会を無くすことは考えずに、競技方法を見直すことや、チームが望んでいる対戦方法を聞いてみることなど、今後に向けてチームの声を聞きたいと思います。

今年度の秋季トーナメント大会は、これからの学連にとって、たくさんの課題を見つけることができた大会だったのではないかと感じました。

また、同日に交流戦を実施しましたが、今後も交流戦を実施する場合は、競技方法や運営方法などよく検討したうえで、今後は学生が主体となり取り組みたいと思います。

関西女子学生バスケットボール交流戦 課題点・検討事項・総括

1. 課題点

1) 試合日程と会場について、確定していない状態で、参加チームを募ることがとても大変だった。

今回は秋季トーナメント大会の日程のうち、いずれかの日程で開催すると案内をしていたため、参加するチーム、学生が参加しようと思っても、予定を空けにくい状態であった。どんなに素敵な企画であっても、これでは参加する側が参加しにくい。

試合日程の確定が遅くなってしまった原因は、秋季トーナメント大会と並行することもあり、交流戦の会場確保がなかなかできず、日程も確定することができなかった。

2) 学連に加盟していない大学は大会参加する上での学連のルールを知らないため、交流戦でも競技注意事項のような資料を前もって作成すべきだった。

- ・ゲームエントリーできる人数について（→スコアシートに入りきらない場合どうするのか）

- ・自チームの前の試合のハーフタイムにアップしていたチームがいたため、ハーフタイムに次の試合のチームがアップすることはダメだと記載する

- ・会場の開場時間、受付時間、コートインできる時間、ゲームエントリーのバッチ時間などをしっかり決める。

- ・怪我の恐れがあり試合中につけてはいけないものについて、公式大会ではないため、どこまで制限をつけるのかを事前に学生間で考え、理事に確認してもらい、交流戦の競技注意事項を作成すれば、もっと円滑に運営が進められた。

→今回あったことは腕にヘアゴムをつけて試合に出場していた

3) 事前にレクリエーション保険に入っていたことに関しては、とても良かった。

4) 誰が中心となって交流戦開催を進めていくのか。

今回は初めての試みということもあり、この交流戦の準備体制がわからなかった。どの部署が中心となって進めるのか、またはどのメンバーで進めていくのかがはっきりしていなかったのではないかと思います。

試合の組み合わせ方法は？タイムスケジュール作成は？などなど

5) 専門学校の取り扱いについて、今回、専門学校のチームは交流戦に参加するということで進めたが、最終的には履正社チームとはレベルの差があるため、エキシビジョンでの試合

（交流戦に参加しない2部の神戸親和と試合）が設定された。

今後も専門学校との交流をする場合は、交流戦に参加するチームとの対戦ではなく、関西女子の2部チームと対戦を組むことがベストなのではないかと感じました。**交流戦に参加するチームはバスケットボールを楽しむということを目的としているため、その点で少し違うのではないかと思います。**また、関西女子学連が運営している試合に専門学校が参加する意味についても、今回行った専門学校との試合は練習試合と同じなのではないかなと試合運営を通して感じました。学連が関わっているということに対して、専門学校との試合のあり方を考えなければならないと思いました。専門学校のチーム、そして対戦した大学チームが参加して良かったと思ってもらえるような、練習試合ではなく試合だったなと思ってもらえる試合にしないといけないと思いました。

6) 交流戦の審判員について、チーム内で審判を出すこととしていたが、選手の怪我防止のためにも、一人はライセンスを持っている審判員、もう一人は学生審判員を割り当てるべきだと今回の交流戦の試合を実際に見て感じました。